

## OA-3

### 遷延性意識障害患者の角膜炎・結膜炎について

山内 可奈子<sup>1</sup>、日下部 裕子<sup>1</sup>、兼松 由香里<sup>1</sup>、石山 光枝<sup>1</sup>、篠田 淳<sup>1</sup>、浅野 好孝<sup>1</sup>、秋 達樹<sup>1</sup>、米澤 慎悟<sup>1</sup>、松本 淳<sup>1</sup>

<sup>1</sup>木沢記念病院 中部療護センター

【はじめに】角膜炎・結膜炎などの眼疾患は遷延性意識障害患者でしばしばみられ、その対応に苦慮する。どのような患者に角膜炎・結膜炎が発生しやすいかを検討することによって、その予防と治療に結びつけることを目的に本研究を行った。

【方法】H13年8月からH23年3月の間に当センターに入院し眼科受診をした患者のうち、カルテ記載より情報が十分に得られた頭部外傷後、遷延性意識障害となった患者111名を対象に下記の8項目の関連因子について検討し結果を統計学的に解析した。1.男女比 2.年齢 3.瞬目反射 4.睫毛反射 5.追視運動 6.受傷から入院までの期間 7.意思疎通レベル 8.NASVAスコア

【結果】111名中角膜炎・結膜炎と診断された患者は43名。診断されなかった患者は68名であった。統計学的に、角膜炎・結膜炎と有意な関係を示した因子は、瞬目反射 ( $p = 0.009035$ )、追視運動 ( $p = 0.008814$ )、意思疎通レベル ( $p = 0.003165$ )、NASVAスコア ( $p = 0.010$ )であった。

【考察・結語】調査の結果、瞬目反射がない、追視運動がない、意思疎通が悪い、意識状態が悪い患者は、角膜炎・結膜炎になる確率が高いことが示された。コミュニケーションが困難な患者は、眼に異物が入っても訴えることができない。瞬目反射、追視運動が不十分な患者は眼内に異物が入りやすく涙液による自浄が不十分で自力で異物を除去しにくい。今回の結果より、これらの因子を有する患者に対し、これまで以上に注意を払い、洗眼などによる疾病の予防と共に、病態の出現を早期に発見し適切な治療へ結びつけていくことの必要性を感じた。